

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

京都観世会三月例会

平成31年3月24日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



忠度

〈能〉

吉浪壽晃

昆布売

〈狂言〉

忠郎改×
善竹彌五郎

胡蝶

〈能〉

河村博重

善知鳥

〈能〉

浦田保親

主催 公益社団法人 京都観世会

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

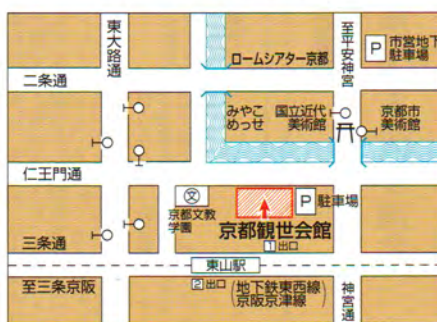
お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます
<http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます
Pコード：490-629

前売券 (1階当日指定席) 6,000円
当日券 (1階当日指定席) 6,500円
学生券 (2階自由席) 3,000円

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
JR京都駅から — 市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
地下鉄丸太線「烏丸御池駅」で東西線乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
阪急河原町駅から — 市バス[31][46][201][202][203][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
京阪三条駅から — 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
JR二条駅から — 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
山科・醍醐方面から — 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
地下鉄東西線「東山駅」から — 徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会三月例会

忠度 附吉浪壽見

(能) 徒僧 岡 充 大鼓 石井保彦
旅僧 原 大 小鼓 成田達志
徒僧 原 陸 笛 杉 信太郎

昆布壳

(狂言) 忠一郎改メ
大名 善竹彌五郎 昆布壳り 善竹隆平

胡蝶 里女河村博重

(能) 旅僧 江崎欽次郎 大鼓 谷口正壽
間 一條辺り者 善竹隆司 小鼓 竹村英雄
太鼓 前川光長 笛 赤井啓三
休憩二十分

善知鳥 千代童 深野百花
妻 松井美樹
漁師 浦田保親

(仕舞) 俊成忠度 キリ 松野浩行
西行桜 橋本雅夫
采女 キリ 吉田潔司
春日龍神 古橋正邦
(能) 旅僧 江崎正左衛門 大鼓 白坂保行
間 外ノ浪壽ノ者 善竹徳一郎 小鼓 曾和鼓堂
笛 森田保美

附祝言

(終了予定 四時半頃)

後見・地謡

(後見) 橋本擴三郎 浦田親良 林 宗一郎
井上裕久 (地謡) 河村和貴 味方 玄
梅田嘉宏 分林道治
深野貴彦 浦部幸裕

(後見) 上吉川 徹

(後見) 河村晴久 谷 弘之助 大江信行
片山九郎右衛門 (地謡) 河村和晃 味方 團
大江泰正 片山伸吾
橋本忠樹 橋本光史

(地謡) 樹下千慧
越賀隆之
青木道喜
吉田篤史

(後見) 杉浦豊彦 河村浩太郎 浅井通昭
大江又三郎 (地謡) 大江広祐 浦田保浩
宮本茂樹 河村和重
田茂井廣道 河村晴道

解説

平忠度の和歌の師匠、藤原俊成に仕えていた者が出家し、西国へ向かう途中、須磨の浦で薪を運ぶ尉に出会う。若木の桜のもとで尉は回向を頼み、忠度のこと語る。やがて尉は忠度の霊であることが暗示して消え失せる。

(中入) 里の男に忠度のことを聞いた僧が回向を続けると、在りし日の姿で忠度が現れ、西国への都落ちの途中、俊成のもとへ立ち帰り、後日の勅撰集への和歌を託したこと、岡部六弥太と戦い討ち死にしたこと、死後腰の敵に着けた短冊の名から忠度と知られたことなどを語り、桜の花の蔭に消えてゆく。

「行き暮れてこの下蔭を宿とせば花や今宵の主ならまし」の忠度の歌をひき、「木蔭を旅の宿とせば花こそ主なりけれ」と終曲を迎える。花が一曲の基調となる名曲で、世阿弥自身この能を「上花」と高く評価していた。

く。そこに由緒ありげな古宮があり、その御殿の階段のそばに梅が美しく咲いているので僧が眺めていると、誰も居そうにない家から一人の女性が見えて、この御殿や梅の木について語って聞かせるので僧が女の素性を問うと、実は自分は人間ではなく胡蝶の精だとあかし、そして春夏、秋と草木の花から花へと戯れる身だが早春の梅花とだけ縁がないのが悲しいので姿を変えておすがりして法華経の功德を受けて成仏したいと願う。莊子が夢で胡蝶となった故事や光源氏が童に胡蝶の舞をまわらせ舟遊びをしたことなどを語り、もう一度御僧の夢の中でお会いしようとして消えてゆく。

(中入) 僧が木蔭で仮寝をしていると、夢に胡蝶の精が現れ、法華経の功力によって成仏し梅と隔てのない間柄となったことを喜び、花に飛びかう胡蝶の舞をみせ、やがて春の夜の明けゆく空に、歌舞菩薩の面影を残して霞にまぎれて去ってゆくのであった。

善知鳥 諸国一見の僧が、立山禪定(山岳修行)すると、老人(亡者)と出会う。老人は、外の浜に居る妻子を尋ね、養笠を手向けてくれよとの言伝で、着ていた麻衣の片袖と共に僧に託し、行く方知れずになる。

(中入) 外の浜で狐師の宿を捜し当てた僧は、約束通り妻子に言伝して、狐師の形見の衣と件の片袖を合わせ、亡者に出会った手向とす。所望通り養笠を証として、回向をすると、狐師の霊が現れ、生前の罪業を述べ、我が子が走り寄るが罪の報いで隔てられてしまふ。ヤヌカと子の泣き声を真似て親鳥を殺し、ウトウトと親鳥の声で子の鳥を捕った報いである。殺生を生業とした身を悔み、また善知鳥を殺す様を見せ、地獄の責め苦を現して、僧に救いを求めて消えてゆく。

既成の立山地獄説話と、善知鳥説話を組み合わせた作品である。山は里(世俗)を離れる故に、異世界として捉えられる。殊に立山の厳しい自然は、地獄として把握され、亡者の地とされてきた。この曲はその地獄を舞台に現出させる。そして、生きる為には我が子を養う為に、子を愛する故に、善知鳥の子を殺さねばならなかった狐師の、生の不条理を、北の最果の風の中に、切なく描く。悲しく、陰惨な曲である。

お客様へお願い

- ◆ 特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆ 開演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
- ◆ 許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆ 場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆ 予告なく出演者等に変更がある場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆ 東隣に有料駐車場がございます。満車の節は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

〔善知鳥〕片山幽雪
ウシマド写真工房撮影

次回予告

京都観世会四月例会
平成31年4月28日(日)
午前11時開演

- (能) 歌 占 分林 道治
 - (能) 茶 壺 小笠原 匡
 - (狂言) 熊 野 観世 鏡之丞
 - (能) 船 橋 橋本 光史
- 読次之伝 村雨留 墨次之伝